

令和8年度 第2回 追分小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和8年6月16日（火） 14時15分から15時45分まで
- 2 開催場所 浜松市立追分小学校 会議室
- 3 出席委員 小山 正博、松本 依子、村上 美代子、今泉 るり子、野田 昌宏
齋藤 泰司、丹下 睦治、杉浦 芙実
- 4 欠席委員 なし
- 5 オブザーバー 横市 佳音（西部協働センター）
- 6 学 校 澤田 直子（校長）、松田 浩征（教頭・CS担当）
池野 紀子（教務主任・4年担任）、山田 公子（CSディレクター）
澤田 聖子（1年担任）、武村 考祐（2年担任）、永井 良洋（3年担任）
古橋 瑠実（5年担任）、永坂 陸（6年担任）、神田 菜保加（養護教諭）
笹原 壮希（さくら1組担任）、庄山 舞子（さくら2組担任）
保野 舞（なのはな担任）、田代 啓太（みつばち担任）

- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 山田 公子

9 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に確認を行い、野田会長より松本副会長を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

10 協議事項

- （1）学校の抱える課題と改善策について
- （2）職員との意見交換

11 会議記録

司会の松田教頭から、委員総数8人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

議長の指示により、別紙資料に基づき、学校の抱える課題について校長より説明があった。学校全体における教職員の不足により、多様な表れに対し、支援や指導が追い付かず大変である現状、学校全体を機能するための役割を担う職員の厳しい実態、それを支える職員やCSとPTAの重要性が説明された。一人ひとりの『こども』が主語となり、子供自身に学ぶ意欲を持たせ、根付かせ、育てなければならない。共助のパラダイムへの思考転換の必要性がある。そのために、サキドリ研究における5分短縮によって生まれた時間を教育の質を高める投資と捉え、学習の基盤となる力をつけるための時間として生かしていく。そして子供たちの心が耕され、共助による好循環を目指し、子供の自己調整力や教員のやりがいの回復へとつなげていく。

（1）学校の抱える課題について

校長の説明を受け、会議に先立って行われた授業参観も踏まえ、委員からは以下の発言があった。

- ・児童の中には掃除など日常的な活動の進め方が十分に身につけていない様子が見受けられた。

教職員の行動が児童の主体的な行動につながる可能性がある。さらには、習い事など学校外での経験も生かされることが望ましい。また、授業への集中の様子に懸念がある。参観者としての関わり方についても判断に迷う場面があった。(小山委員)

- ・ 5分短い授業でも、事前準備が整っている学級では円滑に学習に移行できていた。このように状況が整えば、充実した授業になると感じた。運動会において、児童がそれぞれの目標に向かって主体的に取り組み、達成の喜びを表現する姿を見かけ素晴らしかった。また、活動中に予期せぬ出来事があっても、諦めずにやり遂げる様子が印象的であった。そして、教職員と児童がともに活動を楽しむ様子が見られた。(村上委員)
- ・ 朝読書は落ち着いた学習環境づくりに有効ではないか。黙想を取り入れて開始した授業では、落ち着いた態度で臨む様子が見られた。指導上のメリハリのつけ方について、教員同士で共有・確認することは重要ではないか。また、課題を見逃さず、その都度丁寧に対応するとともに、児童のよい姿を見つけて共有することも相乗的な効果につながる。これからについて、裁量の時間等を活用して話し合うのはどうか。(野田会長)
- ・ 運動会に関する意見や感想を児童が述べる機会が設けられた。意見を表明できる場があったことを肯定的に受け止めている児童もいる。意見が必ずしも反映されずとも、自分の考えを聞いてもらえることに意義があり、納得感につながる。(杉浦委員)
- ・ 暑さの影響も含め、午後からは疲労から集中力が低下することも考えられるため、その面からは午前中の5時間授業はいい取り組みであると言える。一方で40分授業の進め方については、今後の課題であり、実践を通して改善していく必要がある。今後に期待している。(今泉委員)
- ・ 6年生は、授業への移行がスムーズであった。児童が取り組みに慣れるとともに、教職員や上級生の姿を手本として成長していくことで、学校全体の負担軽減につながる事が期待される。今後、秋以降の様子の変化を見守っていききたい。(横市オブザーバー)
- ・ 以前と比べると落ち着きに課題が見られる場面もあり、今後の成長に期待したい。また、休み時間前に次の準備を済ませておくことは、円滑な授業開始に効果的である。運動会では、教職員が活動を楽しむ姿が、児童の意欲や楽しさにもつながっていた。(松本議長)

(2) 教職員との意見交換

議長の指示により、教頭より、委員と追分小職員とのグループミーティングについて説明があった。その後、グループミーティングが実施され、情報交換並びに意見交換をした。各グループからは以下の発言があった。

【Aグループ：小山委員、齋藤委員、池野教務主任、古橋教諭、永坂教諭】

- ・ 努力や根性だけでは課題解決が難しい実情を共有できた。下校時刻が早まることへの対応として、城北会館を拠点に、立ち寄れる講座や花壇づくりなど、地域と連携した活動展開が考えられるのではないかと。また、ボランティアや追分応援団に限らず、より幅広く地域と関わる機会作り、協働できる仕組みを検討したい。

【Bグループ：野田会長、丹下委員、保野教諭、田代教諭、神田養護教諭】

- ・ 授業で行った内容に対するフィードバックの時間は大切である。今後は、実践の中で得られた成果や課題について振り返り、よかった点・改善点を意識的に共有しながら、授業改善につなげていくことが必要だ。

【Cグループ：今泉委員、杉浦委員、澤田教諭、武村教諭、永井教諭】

- ・環境の変化に伴い働き方も変わる中で、人手不足の状況について理解が得られ感謝している。
また、総合的な学習の時間や生活科における地域との関わりについて、窓口や新規開拓に関する提案があり、大変ありがたい。こうした提案・連携により、一体となって教育活動を推進していくことができる。

【Dグループ：松本議長、村上委員、横市オブザーバー、笹原教諭、庄山教諭】

- ・運動会において、児童が生き生きと活動し、いい表情を見せていたとの報告は、指導側としても大変喜ばしい。人手不足の状況について理解してもらえることはありがたい。裁量の時間については、児童が自分の興味・関心を深めるきっかけとなっている。登下校を含め、地域みなさんが学校外にも目を向けてもらえることは心強く、教員として、今後も学校内外の状況を意識しながら指導にあたっていきたい。

＜その他報告事項等＞

学校支援コーディネーターの今泉委員より、運動会を中心とした1学期のボランティア参加状況や、2学期の活動予定が報告された。

司会から、次回会議は、2026年10月27日（水）午後1時20分から追分小学校会議室で開催する旨の報告があった。